

<パササンバオに診療車を！>

バイクに相乗りしてコミュニティ巡りをするパササンバオのスタッフたち。遠い村へはレンタカーになります。料金は毎年値上がりし、今年は1日当たり2,500ペソ(約6千円)。自前の車があれば迅速な診療が可能になり、使わないときは賃貸することもできます。目標は50万円！ご協力下さい。(P4)



2007年7月25日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会
(英文名略称・HANDS)
227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11
TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933
E-mail: hands-ty@r07.itscom.net
http://www.jca.apc.org/~hands/
郵便振替口座 00210-5-72693
(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

住民組織 MTBCAI にゆだねられた持続可能な村の開発

— ブラクルの首長ダトゥ・サルニ逝く(享年71歳) —



ダトゥ・アノン・サルニ
(2006年12月相田撮影)

ダトゥが亡くなった7月7日土曜の午後、奇しくも私は横浜 NGO 連絡会(YNN)主催の国際フォーラム・分科会会場で、ブラクル開発の礎を築いたこのマノボ民族の首長の話を見せていただいていた。

1970年代末に、ダトゥがレイクセブにレックス神父(当時先住民族支援ミッション SCM 代表)を訪ねてブラクルの窮状を訴えた結果、1983年に地域で初めての学校SCMブラクル小学校ができたこと、その後もダトゥのリーダーシップのもと、植林、簡易水道建設やアバカ栽培など、FOT(少数民族里親の会・本部山口県)の支援を受けて生活基盤が徐々に整備されてきた村の歩みを紹介しました。

YNN から地域開発分科会の事例報告を依頼されてブラクルを取り上げることにしたのは、住民組織の存在です。この組織は Manobo T'boli Blakul Community Association Inc.(MTBCAI)といいます。先住民族組織を支える現地NGO・PFPの協力と、民族の首長ダトゥ・サルニのリーダーシップのもとで、64世帯からなるMTBCAIは、学校運営やアグロフォレストリなどの持続可能な地域開発事業を担ってきました。

5年前、FOTに代わり、当会がブラクルの学校を支えることになった時、小学校とハイスクールの運営に年間いくらか必要か、そのうちMTBCAIは、自主財源である授業料収入、学校敷地のアバカ収益などで

何%ぐらい支えられるのか、概算をいただきました。その数字に基づき、小学校教師5名の給与分にあたる年60万円の支援を決めました。同時に、MTBCAIが自主財源を増やせるように、小規模アグロフォレストリやヤギ飼育支援を始めました。計算では、5年が経過した2007年度の当会支援は2002年の半分以下になるはずでした。しかし、PFPの助言もあり、今年度の支援額は3年据え置きで42万円です。

6月訪問時訪ねた学校農園ではバナナがたわわに実り、ランブタンの果実も3ヵ月後には収穫の予定と聞きました。ヤギの繁殖も成功し、すでに16世帯に配布されています。シナリオどおりとはいきませんが、近い将来の豊かな実りを確信しました。

MTBCAIの自助努力は行政にも評価されており、昨年度からハイスクール生徒授業料に政府補助がでています。村の産婆だったイダは、バランガイヘルスワーカーに認定され、手当ももらえるようになりました。

共同体の精神的リーダーが亡くなった今、私たちは、住民組織MTBCAI、教師たち及びPFPとの連携を一層強めながらブラクルの持続可能な開発を支えていきたいと思います。(山崎)



←バランガイヘルスワーカーのIDカードを付けたイダ

MTBCAI 議長ウングイ →